

令和7年度(2025年度)学校評価まとめ

教育方針(学校教育目標)	目指す学校像(中・長期的目標)
勤労青少年に教育の機会を与える定時制課程設置の本旨に則り、「働きながら学ぶ」ことへの強い意志と堅い信念を培い、工業技術の基礎知識・技術を習得させ、もって社会の有為な形成者を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・長年培った伝統を礎に、地域からの信頼を一層高めるとともに、地域社会や産業を担う人材を育てる。 ・ものづくりを通して基礎技術や知識の定着を図り、職業人としての姿勢を確立する。 ・生徒一人ひとりが達成感を味わい、生きる力を身に付けるために教育活動を推進する。
今年度の重点目標	
<ul style="list-style-type: none"> ①多様化する生徒を深く理解し、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな教育活動を行う。 ②自己実現に向けてキャリア教育を充実させ、豊かな人間性を育み、生きる力を育てる。 ③人権を尊重し、自己効力感を持たせ、いじめや体罰のない安全・安心な学校をつくる。 	

評価基準 A:達成している B:若干の改善余地がある C:達成していない

領域	分野	重点	具体的目標	具体策	評価の観点	評価	
学習指導		①	1 基礎基本を大切にしたりわかりやすい授業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実情に応じた興味関心の持てる教材を考え、プリントやICTを利用し、きめ細かな指導をする。 ・必要に応じて、個別の学習指導等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実情を理解して、学び直しを取り入れた学習ができたか。 ・ICT等を効果的に利用することで、授業の理解が深まり、生徒の意欲を引き出すことができたか。 	A	
		②	2 工業科目の特色を生かし、生徒が興味関心を持って意欲的に学べるよう工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味関心を引き出す指導及び教材を工夫する。 ・個々の意欲を引き出すために資格取得等を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導及び授業に有効な工夫ができたか。 ・生徒が資格取得に積極的に挑戦したり、課題研究発表会に意欲的に取り組めたか。 	B	
				成果と課題	改善策		
				<ul style="list-style-type: none"> ・6月・12月に2回授業アンケートを行い、その結果を職員で共有し、授業改善につなげた。 ・ICT機器を用いたり、生徒個人に合ったペースできめ細やかな指導を行っている。自らが主体的に勉強に向かう姿勢を持たせたい。 ・技能検定取得を含めた指導で、技能習得に向けて努力する生徒が増加している。その結果、技能検定や各種資格に挑戦する生徒が意欲的に活動に取り組んでいる。 ・課題研究では主体的に課題を持たせ、取り組ませたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生では基礎学力の定着を進め、基礎学力テスト等を有効に使い自分でPDCAサイクルを利用して学力を向上できるように指導をしていく。 ・3・4年生では高校で学んだものから自発的に疑問や課題を見出し、その解決に向かう過程で勉強と自分が生きている世界とのつながりを実感し、次への学びのに向かう姿勢を育てる。 ・今後も技能習得、資格取得に向けて、技能訓練を大切にし意欲の喚起を含めたバックアップを続けていく。 		
生徒指導		①	1 基本的な生活習慣を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や家庭とのコミュニケーションを大切に、丁寧な指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の無断欠席や遅刻、早退などが減っているか。 ・お互いが気持ち良く挨拶ができるようになったか。 	A	
		②	2 校内巡視の実施、事故防止の呼びかけ等の活動を積み重ねることで、安全・安心な学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・正門での立ち番及び校内巡視等を積み重ねることで、安全・安心な学びの場を保障する。 ・講話や日々の職員の声掛けを通し、安全に通学するよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心に寄り添いながら、安全・安心な学びの場を構築することができたか。 	A	
				成果と課題	改善策		
				<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と職員が互いに気持ち良く挨拶をし、生徒の微妙な変化も見逃さないよう登校時の健康観察や職員連絡会を実施している。 ・生徒・保護者とこまめに連絡を取り合うことにより無断での欠席はなかった。しかし生活リズムの乱れにより、遅刻がちになる生徒もいる。 ・ホームルーム等で、生徒の交通安全への意識向上をはかっている。特にバイクや自動車の運転について正しい利用法や安全に関して繰り返し確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時観察を大切に、生徒との綿密なコミュニケーションを心掛け、小さな変化も見逃さないようにする。 ・外部機関と連携し、人との接し方を身に付けるとともに、自己肯定感・自己有用感を高め生きる力をつける。 ・交通事故については、今年度は幸い命に関わるような大きな事故ではなかったが、継続的に交通安全に対する意識を高める声掛けを続けていく必要がある。 		
教育活動	進路指導	①	1 生徒の適性や希望を生かした進路指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対して就労支援をし、確かな職業観を育成する。 ・講演会や個別面談等を通じて恒常的なキャリア教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が希望・意欲を持ち、納得した進路実現ができたか。 	A	
		②	2 職業人としての自覚と意欲を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりや実習体験などを通して適切な職業観を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりに携わる意識を育む指導が適切に行われたか。 	A	
				成果と課題	改善策		
				<ul style="list-style-type: none"> ・五者懇談会、上田千曲産業展などの実施を通して、地元企業のものづくりに触れ、働くことへの意欲につながった。 ・4年生の就職については、家業の鉄工所や機械部品を製造する企業への就職など、学校で学んだことが結びつく結果となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意義やライフプランニングをさらに意識させる機会を設ける。 ・就職するにあたって、普段の学校の授業が実際の仕事に結びついていることや、基本的な生活習慣の重要性を生徒が実感できるように指導を続けていく。 		

	重点	具体的目標	具体策	評価の観点	評価	
キャリア教育	①	1 自己の在り方、生き方を考え、将来設計と社会参画の意識を醸成する。	・生活体験発表文を書き、全校の前で発表し合う。 ・社会人講話や進路講話を実施する中で、自己分析を図れる能力を身につける。	・生徒各自が生活体験発表文を書き上げ、皆の前で発表できたか。 ・生徒が意欲的に社会人講話や進路講話に参加できたか。	A	
	②	2 仕事や社会で必要となる力(基礎的・汎用的能力)を育む。	・就労体験や学習活動・特別活動等を通して、相互に理解し合い自己の心をコントロールしながら、社会人としてのマナーやルールを守ることや、基礎的・汎用的能力を身につける。	・生徒が就労体験を通して、基本的生活習慣が身に付いたか。 ・授業前学習活動等を通して、基礎的な学力が身に付いたか。	A	
	③	3 様々な学習や体験を通して勤労観、職業観の形成を促し、卒業後の進路選択に結びつける。	・実習への積極的な参加や、日常的就労を支援し、将来設計を図る。 ・日々の教育活動を通して、卒業後に社会人として自立を目指す。	・生徒が規則を守り、安全に実習に取り組めたか。 ・就労支援を積極的に行うことができたか。	A	
	成果と課題		改善策			
		<ul style="list-style-type: none"> 生活体験発表会を通じて、自分を見つめ直し、自分を表現する中で、自分と違う考え方に対する理解や視野の広がりを感じ、人として成長する機会となった。 キャリア教育を年2回実施する中で、敬語など社会人になってから役立つマナーやコミュニケーション能力の向上を意識づけることができた。 就労先の紹介を行うことなどにより、8割を超える生徒が就労し、社会と関わりを持ちながら、職業観を伸ばしている。 		<ul style="list-style-type: none"> 生活のリズムの改善が必要な生徒のため、職業観育成のために就労支援を積極的に行う。 進路決定が難しい生徒に、いろいろな可能性を示すことが出来るよう見学企業の業種を増やす。 		
生きる力	重点	具体的目標	具体策	評価の観点	評価	
	①	1 行事やクラブ活動など様々な活動を通して自信と希望を持たせる。	・学校行事や生徒会活動等に積極的に参加させ、達成感を育むと共に、協調性を培う契機とする。	・生徒は積極的に生徒会活動や学校行事に参加し、達成感や自信を持つことができたか。	B	
	②	2 他者を思いやる心や公共心を育てる。	・清掃・実習・クラブ・ボランティアなどの活動を通じ、責任を持って自分の役割を果たし、他者を認め互いに協力できる関係を築く。	・生徒が相互にかかわりを深めあい、仲間と協力して活動する喜びを体験できたか。	B	
	成果と課題		改善策			
		<ul style="list-style-type: none"> 新入生歓迎会、生徒総会、クラスマッチ、干曲祭などの生徒会行事を通して、生徒相互で協力しながら活動する姿勢が見られた。 クラブ活動では全校で総体にむけて、楽しみながらも競技力を向上させる熱心な活動が見られた。卓球では北信越大会に出場し、他校の生徒と関わりながら競技を最後まで頑張る姿が見られた。 清掃や給食の片付けなど、日常の些細な行動にも思いやりや公共心が育むよう、声掛けを行った。 		<ul style="list-style-type: none"> 各行事の意味や重要性を伝え、生徒が主体的に取組み、その中で積極性と協調性を身に付けられるようサポートしていく。 生徒数が少なくなっている状況ではあるが、全員が役割を担い充実した活動となるように計画をする。 まずは職員が挨拶を気持ちよく行うことで、それを生徒にも当たり前として浸透させていく。 上位大会出場の経験を有効に活用できるように他校との交流を含め生徒の自信につながる活動を増やす。 		
校外連携	重点	具体的目標	具体策	評価の観点	評価	
	①	1 地域との連携を深め、地域の支援を得つつ、より充実した教育活動を図る。	・教育振興会との連携を大切にしながら、生徒の就労先との連絡を密にし、五者懇談会(保護者、就労先、職員、卒業生、在校生の五者)への参加を呼びかける。	・様々な機会を通じて、教育振興会との連携を深めることができたか。 ・五者懇談会が充実したものになったか。	B	
	②	2 定時制の特性や実態をよく理解してもらい、学ぶ意欲と自覚を持つ入学希望者の確保を図る。	・ホームページ、学校説明会、体験入学等を通じて本校定時制の特徴を理解してもらうよう努める。	・ホームページの更新が十分に行えたか。 ・中学生及びその保護者、中学校職員に本校定時制の特徴を理解してもらうことができたか。	B	
	c		改善策			
		<ul style="list-style-type: none"> 五者懇談会を実施し、卒業生を招き仕事での経験を聞くなど充実した懇談会が出来た。 教育振興会からは、新入生歓迎会、終業式での皆勤賞、生徒の生活体験発表大会で激励の言葉をいただき、生徒の意欲の向上につながった。 清泉大学や中小企業家同友会など、外部機関と協力して活動することができた。 ホームページのこまめな更新を心掛け、入学希望の保護者から評価されるなど本校定時制の実態を発信することができた。 中学生の体験入学や学校見学会を複数回実施し、定時制機械科で学ぶことについてより深く伝えることができた。 		<ul style="list-style-type: none"> 様々な機会を通じて積極的に外部とつながり、社会で起きている変化に敏感に察知できるよう、活動を継続していく。 定時制の教育に理解をいただき、協力いただける振興会の会員を増やす。 引き続きホームページの更新に努め、生徒の活動をより知ってもらえるようにする。 		
学校連携	重点	具体的目標	具体策	評価の観点	評価	
	①	1 多様な生徒の要求に対応できる教員の資質の向上を図る。	・職員研修会等を実施し、キャリア教育・特別支援教育等の教育課題に対して職員が理解を深め、全員での取り組みを行う。	・研修会等を通して教育課題への理解が深まったか。 ・研修成果を生徒に還元できたか。	A	
	成果と課題		改善策			
			<ul style="list-style-type: none"> 人権研修として、長野大学社会福祉学部教授 丹野傑史氏の「特別な支援を必要とする生徒との関わり方について」という演題の講演を拝聴した。 常に新しい情報を取り入れ、共有していけるように、昼夜の連絡会を通してこまめな伝達を心掛けた。 		<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、この体制を維持していきたい。 	
校内組織	重点	具体的目標	具体策	評価の観点	評価	
	①	1 少人数の利点を生かし、分掌機能の連携と充実を図る。	・毎日の連絡会を有効に利用し、係相互の連携を図る。	・係の意図をよく理解し、学校全体でそれに取り組むことができたか。	A	
	成果と課題		改善策			
			<ul style="list-style-type: none"> 昼・夜の連絡会を有効に活用し、職員相互の連絡を密に取ることができている。 		<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、昼・夜の連絡会を通して情報共有と職員の意思疎通を図っていく。 	